

2014/05/15

亜細亜大学アジア「夢カレッジ」運営委員長 西澤正樹

## 「夢カレッジ」の海外インターンシップの取り組みと今後

### 1. アジア「夢カレッジ」の海外インターンシップ

#### 1) キャリア開発中国プログラム

「四年一貫産学連携教育」「150日間の中国留学」「五週間の海外インターンシップ」

大連市政府の支持

留学・インターンシップ派遣前教育・研修

#### 2) 海外インターンシップの内容

現場実習の趣旨 3つの学習機会の提供

学生> 心構え 誓約書 実習日誌 「留学・インターンシップ報告書」

企業> 評価表 時間外指示書 出張指示書 要望書

#### 3) 10年間の実習実績

31企業、機関 146名 (2014年予定含む)

### 2. 海外インターンシップの実施要点

#### 1) 立ち上げ期

組織対応態勢 (亜細亜大学、大連外国語大学)、「留学ハンドブック」

現地法人の判断、認知

#### 2) 拡張・継続期

年5回の現地出張

学生とキャリア教育の状況と結果報告

派遣学生の「目的意識」の明確化、保持

### 3. 「夢カレッジ」海外インターンシップの今後

1) グローバル人材育成の要請への対応 (英語力、「現場行動力」)

2) アジアでのインターンシップの多様化 (アジア地域展開)

3) 帰国後3年次のキャリア教育の開発 (プロジェクトメソッド)

4) インターンシップ効果の検証 (社会人5年目以上のOB、OG)

表 1. 「夢カレッジ」生の海外インターンシップ

企業名	所在地	国籍	事業内容	留意点	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	8期生	9期生	10期生		
1	メーカー	開発区	日本	・食品加工	・中国語水準	4	1	2	1	3	2	2	1	1	1	18
2	メーカー	開発区	日本	・スターター ・ブレーカー	・中国語水準	2	1	1	2	2	1		1	2	1	13
3	メーカー	金石灘	日本	・車両部品	・環境適応力 ・生活態度	4	2	1	1	2	1	1	2	1	1	16
4	メーカー	保税區	日本	・精密スプリング	・社員との協調、 交流	2	1	1	1	1	1			1	1	9
5	メーカー	開発区	日本	・医療機器 ・映像機器	・職場研修の目的 ・環境適応力	3	1	1								5
6	メーカー	開発区	日本	・コイルセンター	・積極的実習姿勢	1										1
7	メーカー	開発区	日本	・射出成形部品	・中国語水準 ・社員との交流							1				1
8	メーカー	開発区	日本	・ジッパー	・インターンシッ プ目的意識									2	2	4
9	運輸	保税區	中国	・物流 ・航空業務	・中国語水準				1	2		1		1		5
10	行政	開発区	中国	・地域行政	・中国語水準				1	1						2
11	メーカー 貿易	市区内	中国	・貿易 ・金属加工	・現場適応力	1	1		1	1		1				5
12	メーカー 貿易	市区内	中国	・受託製造 ・貿易	・中国語水準 ・中国関心						1					1
13	人材紹介	市区内	日本	・人材紹介 ・人材研修	・中国語水準 ・積極的対人関係	2	1		1	2	1	1	1			9
14	会計事務所	市区内	日本	・会計監査	・中国語水準 ・簿記基本能力	1	1		1	1		1	1	1	1	8
15	法律事務所	市区内	日本	・弁護士事務所	・法律や経営関心	1	1		1	1						9
16	法律事務所	市区内	中国	・弁護士事務所	・中国語水準	1				1		1	1	1	1	2
17	損害保障	市区内	日本	・損害補償	・中国語水準 ・営業業務関心	1	1				1	1	1			5
18	総合商社	市区内	日本	・貿易	・現場提案 ・中国語水準	2										2
19	コンサルティング	市区内	中国	・労働コンサル	・中国語水準 ・積極的対人関係	1			1							2
20	情報処理	市区内	日本	・情報処理 ・印刷	・中国語水準	2	1		1							4
21	情報処理	市区内	中国	・情報処理 ・印刷	・現場提案 ・中国語水準						1		1	1		3
22	情報処理	市区内	日本	・情報入力 ・CAD入力	・中国語水準 ・挑戦する意欲						1					1
23	情報処理	市区内	韓国	・情報検索 ・ソフト開発	・キャリア意識						1		1			2
24	出版	市区内	日本	・広告出版	・中国語水準 ・実習への意欲						1	1	1	1	1	4
25	飲食	市区内	日本	・飲食サービス	・中国語水準					1						1
26	医療	市区内	日本	・医療サービス	・中国語水準						1		1	1		3
27	旅行	市区内	中国	・旅行業	・中国語水準 ・大連観光知識						1				1	2
28	流通	市区内	日本	・流通販売	・キャリア意識								1			1
29	教育	市区内	中国	・教育	・中国語水準				1	1						2
30	行政	市区内	日本	・在外公館	・インターンシッ プ目的意識	1						1	1	1	1	5
31	行政	市区内	日本	・企業支援	・インターンシッ プ目的意識										1	1
						29	12	6	13	19	9	18	10	16	14	146

タイトル：

「山梨学院大学が取り組む、長期インターンシップについて」

発表要旨：

1. 概要

長期インターンシップ・プログラムの位置づけ

2. プログラムについて

シラバス、実施時期、期間、条件その他

3. 学生の反応

アンケート結果、担当教員の視点から

4. 今後の課題

大学サイドの環境整備、受入企業の環境整備

## 大学におけるキャリア教育と先進校の長期インターンシップの動向

文教大学 那須 幸雄

大学のキャリア教育の進展とともに、総合的に学生のコンピテンシー、エンプロイアビリティを高めるため、インターンシップの内容の充実化が図られている。

わが国の先進大学、大学院における長期インターンシップの実施状況を調査し、そこに見られる特徴を分析する。今後、キャリアガイダンスとの関係で、わが国でも長期インターンが普及することが予想される。本学でも、2014年度から3年次対象の「専門インターンシップ」（1～4か月の実習）を開始した。事前研修付きで、1～4か月を実習できる。

「長期インターンシップ」の統一された定義はないが、実習期間が1か月から6か月までのものを指すことが多い。大学によっては、3～6か月の実習を長期インターンとするところもある（1～3か月の実習を中期と呼び、6か月を長期と呼ぶ大学もある）。

長期インターンを実施する目的は、教育制度により異なり、受け入れ企業・機関への就職を目的とするもの、学生のキャリア教育を徹底するために実施しているものがある。

大学、大学院の先進事例を2010年度に調査した。学部については、国内の5大学を、大学院については2大学をインタビュー調査している。

（1）大学学部： 大学によって、インターンシップ、長期インターンシップ、コーオペ演習（課題解決型）と呼称している。学部の中の特定学科のみ、必修で長期インターンを実施している例が1つあり、その他4例は全学的な取り組みである（どの学部の学生も参加が可能）。必修・選択で見ると、上記の特定学科の例と理工系大学で卒業前の2か月を「実務訓練」としている例の2つが必修で、その他は選択科目である。短期のインターンも実施しており、長期のものもあるという形が多い。

「長期インターンシップ」と呼んでいる場合、実習期間は6か月が多い（4～6か月という大学もある）。6か月の長期インターンという考え方が、わが国では成立しているようにみられる。長期インターン中の他講義・演習の履修については、全く他のものを履修させない例（2校）、専門ゼミナールと必修科目のみ（週1～2日）の履修を認める事例がある。一方、コーオペ演習では、6か月の実習中、大学に通うことができる（チーム制の問題解決）。

実習先企業・機関の紹介形態は、大学紹介が多いが、学生による実習先の開拓をしている事例もある。就職との関係では、長期インターン＝受け入れ先への就職を前提とする例もあるが、そうでないケースが多い。「長期インターンシップ」の履修単位数は6か月で16単位、特定学科対象のケース（6か月実習）で4単位、コーオペ演習（6か月実習）で2単位となっている。事前研修は、1年次から必修科目があつて、それを実習の条件としている例がある。長期のインターンは、わが国では、大学・教員の負担が大きく、景気との関係で、長期の実習希望は減少しているということである。

（2）大学院： 2事例、国立大学の理工系大学院について調査した。大学院生（修士課程、博士課程）向けに長期にインターンを実施し、就職力をつけてもらうのが目的である。

## 2014 年度関東支部第 3 回研究会発表要旨

1. 発表テーマ : 「長期海外インターンシップの教育実践報告 (仮題)」
2. 発表者 (所属) : 高橋 修一郎 (神田外語大学)
3. 発表要旨 :

本発表が取り上げるのは、長期海外インターンシップに関する教育実践報告である。本学園は、専門学校と大学を併設している。当初本取組は、専門学校の 1 専攻科である国際観光科のインターンシップとして 2009 年開発された。当時は、2008 年観光庁が設立、2009 年中国個人ビザ発給開始と、まさに観光立国推進政策が本格始動化した環境下であった。必然的に、今後我が国の政策課題として、観光人財育成が希求の課題となった。このような背景のもと、専門学校が本来の実務教育を発揮するための取組としてスタートしたのである。

本インターンシップの分類としては、①職務実践型と②採用直結型の併用である。①については、授業の理論学習により知識を修得し、企業インターンシップでの実務実践を通して、教室で学んだ知識を知恵とする。いわば、教室と現場での教育を交差させ、学習効果を高めるクロスエデュケーションの取組である。また、②においては、産学連携は、どちらか一方に負担をかけるようであれば永続的な継続は期待できない。お互いにメリットが必要不可欠である。そのため、インターンシップ発祥国米国に倣い、インターンシップ終了後、企業、学生ともに相思相愛の関係が創造できた場合において、採用直結のシステムを構築した。企業においては、海外現地企業のため、日本人採用のアプローチが従来困難であった。本学にとっては、観光業界に即戦力として活躍できる観光人財育成を標榜しているため、インターンシップ本来の目的が達成可能となる。よって、将来に渡り良好な関係構築が実現した形となった。いわば、学生と学校、企業が目的を共有し三方よりの取組といえるのではないだろうか。

さらに、観光人財育成に加え、国策としてグローバル人財育成が望まれる新たな潮流を受け、本取組を 2013 年度より大学においても採用した。専門学校から大学への移行に当たり、より高度なインターンシップを実現するため、③課題解決型をプログラムに付加した。派遣先企業の抱える課題に対し、提案プレゼンテーションを行うことにより、企業にとって気づかなかった発展の可能性が望まれる。外国語学部の学生にとっては、ツールとしての言葉を教室で学び、実際に活用する。言語学習のみならず、現場での経営、接遇等を経験し実践することにより、自身の今後のキャリア形成への経験価値を創造し、自己効力感を高めることを期待している。

以上、研究会においては、本インターンシップの内容、経過、結果、考察、課題について、ご報告申し上げる次第です。貴重な機会をいただきましたこと感謝申し上げます。

以 上